

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2490400047		
法人名	社会福祉法人青山里会		
事業所名	グループホームあおぞら 星ユニット		
所在地	三重県亀山市羽若町字西野834-41		
自己評価作成日	平成28年8月23日	評価結果市町提出日	平成29年1月20日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaisokensaku.jp/24/index.php?action_kouhou_detail_2015_022_kihon=true&amp;JievosvoCd=2490400047-00&amp;PrefCd=24&amp;VersionCd=022">http://www.kaisokensaku.jp/24/index.php?action_kouhou_detail_2015_022_kihon=true&amp;JievosvoCd=2490400047-00&amp;PrefCd=24&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 28 年 9 月 15 日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一日一日を穏やかに過ごして頂けるようにご利用者様のペースに合わせた生活を提供できるよう努めています。ご利用者様にはご本人が持っている力を最大限に活かしその人がその人らしく生活が送れるように取り組んでおります。その他に花見や盆踊り、文化祭の展示への出品、初詣と四季を感じられる行事や外出支援を行っています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

一昨年に作成したユニット毎の理念、「お一人お一人の思いを大切に笑顔が引き出せるような介護を行います。(太陽ユニット)」「否定の“言葉”を言わず利用者さんの出来る事をやさしく見守る介護(星ユニット)」を、管理者・ユニットリーダー・職員が共有しながら事業所の運営に取り組んでいる。午前中、パートの人数を増やし入浴や散歩など一人一人の利用者とゆったり関わられるよう配慮している。職員間で気軽に話が出来ると雰囲気の良い事業所で、職員は利用者が家庭的な環境の中で安心して生活出来る様に日々支援している。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念に沿った目標管理を行うと共にユニット独自の理念をリビングに掲示し認識・実践できるように努めている。	各ユニットの理念をリビングに掲示して、申し送りや職員ミーティングで理念の共有を図りながら利用者の支援をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区のコミュニティが企画するふれあい教室や夏祭り、同法人施設で開催されるボランティアによる行事に参加している。	地区コミュニティのふれあい教室や夏祭り、亀山市総合福祉センターの「あいあい祭り」に参加している。亀山老健のボランティアとの交流や幼稚園児との交流を行っている。地域の方が畑の草取りや栽培を手伝ってくれたり、行事の手伝いもしてくれ協力的である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	同法人が主催している介護予防学校に参加しGHIについての説明やGHでの生活、認知症の方への支援についての講義を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	奇数月の第3金曜日に開催している。GHの利用者様にも参加して頂き日々の様子について話してもらっている。	運営推進会議に利用者が参加している。事業所の利用状況や活動報告、行事予定報告、自治会長や地域包括支援センター職員、利用者家族からの意見や要望を参考にサービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	亀山市が主催する地域密着型サービス連絡会に参加しており、その際に情報交換等を行っている。	運営推進会議の案内を持参した時や運営推進会議開催の時、地域密着型サービス連絡会の開催時に担当職員との情報交換をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内での勉強会をしたり、写真付きマニュアルを作成しどのような行為が身体拘束にあたるか一目見て分かるようにしている。	法人が実施する研修会に参加している。身体拘束について事業所内で写真付きのマニュアルを作成して研修を実施している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	亀山市虐待防止マニュアルに沿って、身体拘束とはについて話し合いを行ったり虐待かもといった気づきがあった場合は職員間でミーティング等を行い話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ミーティング等で説明を行い、制度の啓発や知識向上に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には管理者及びサービス計画作成担当者ご本人やご家族に十分に説明を行い、終了後も不安や疑問点等の返答が出来るよう配慮している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に直接希望等伺っており、出た希望等は運営推進会議にてその内容やどのように取り組んでいるかを報告している。	意見・要望が記入できる提案箱を設置している。面会時や運営推進会議の時に意見や要望を聞いて事業所の運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	現場で出た意見等は申し送りやミーティング時に皆で話し合いを行ったり個別に職員との面談を行い良い運営が出来るように努めている。	管理者・リーダーは職員の意見や要望に常に耳を傾け、気軽に話し合える雰囲気づくりに心掛けている。年1回本部の部長との面談がある。管理者は職員との個別の話し合いを大切にしながら事業所の運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人の就業規則や給与規定等は職員全員に回覧にて周知している。管理者は適時職員からの相談を受けたり職場環境が良好になるように努めている。法人全体で職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で行われている勉強会や同法人のGHの職員が集まり意見交換等を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス事業所連絡会に参加し他施設との意見交換会や事例検討会にて自分達のケアの見直し等を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に必ずご本人様と面談を行っている。その時に要望や不安な事をお聞きし安心してサービスをご利用頂けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人様同様ご家族様にも面談を行い家族としての希望や不安、これまでの悩みや困り事を聞く事で不安への解決に繋がるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状態や生活環境を把握しその人に一番合ったサービスが受けられるよう他のサービスの紹介を行い選択できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来る事はして頂き、出来ない部分は職員が間に入り協力しながら生活出来るよう関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話にて近況報告を行い、協力して頂ける所は負担にならない様お願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅に帰りたいとの要望があれば一緒にドライブがてら自宅を見に行ったり馴染みの病院受診への支援、利用されてきた施設へ一緒に行くようにしている。	ドライブを兼ねて以前住んでいた自宅を見に行ったり、地域の行事に出掛けている。家族と墓参りや馴染みの美容院に行く利用者がいる。地域の馴染みの人や場所との関わりが途切れないように支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者一人一人の性格を把握しお互いがより良い関係を築けられるよう会話の橋渡しや支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に入所されたり在宅に帰られた際は様子を見に行ったりしている。退所後も相談があった場合には随時対応している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや希望を日頃の会話の中で把握するように努めている。困り事や要望があった場合はその都度会話を持ち、本人が納得出来るように問題解決に努めている。	利用者の生活歴・趣味を参考に、日々の会話から思いや意向を聞いて把握するように努めている。把握困難な利用者については、家族の意見や情報を参考に表情や行動等を把握しながら支援するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前調査にてこれまでのサービス利用状況やご家族からこれまでの生活習慣について聞き取りを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りやバイタルチェック、その他家事や調理を一緒に行う事でその日の気分や体調の変化の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者それぞれに担当職員がついており、モニタリングや担当者を中心としたカンファレンスを実施し介護計画に評価や見直しをしている	利用者の担当職員が、毎月モニタリングを実施し、家族の意見を参考にしたカンファレンスを行い介護計画を作成している。3カ月毎に計画の見直しを実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りやミーティングで、ご利用者への気付きや変化の情報を共有し対応方法について話し合い介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族が困難な場合は随時病院受診や買い物支援等の対応を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月1回介護相談員が訪問しご利用者の声を聞いて頂いたり、様子を見て頂いている。運営推進会議には自治会長様にも参加していただき助言を頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時には協力医療機関の説明を行っているがそれまでのかかりつけ医を選択するかは本人・家族に任せている。必要時には職員も付き添いかかりつけ医との関係性を築けるようにしている。	本人・家族と相談して、家族の希望するかかりつけ医を受診している。家族の付き添いによる受診が原則であるが、緊急時や受診が困難な時は、職員が付き添う場合もある。他科の受診については家族にお願いしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員がいない為、病院受診時や同法人内の看護師に相談を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先のSWや看護師との連携を深める事でご利用者の状態を把握しやすい環境を作りGHへの受け入れがスムーズに出来るようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人やご家族の思いや意向を状態変化に応じて話し合い、意向に添えるように支援している。以前終末期ケアを行った事もあり、指針も作成済みである。	入居時に利用者本人・家族と話し合い、重度化した場合の事業所の指針を説明している。終末期や看取りについてのマニュアルが作成しており、重度化した場合や看取りについて研修を実施し、職員間で話し合いを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急の場合は適切な手当てや判断が不十分であり緊急搬送している。急変時のマニュアルの確認や救急法の研修に参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署立会いのもと、消防訓練・防火訓練を実施している。職員全員が速やかに対応できるよう定期的に訓練を継続していく。地域との協力体制が図れるよう連携を強めたい。	年に2回消防職員の協力で、消防訓練・防災訓練を実施している。職員の役割分担と連絡体制は整備されている。食料の備蓄については法人本部で購入し、事業所で管理している。	申し送り時やミーティングの場で火災発生時の役割分担(連絡通報係・消火係・避難誘導係)の確認や、夜間火災を想定した机上訓練を実施することを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩という事を常に頭に置き謙虚な気持ちでプライドを傷付けないよう言葉かけや対応をするよう心がけている。	人生の先輩である利用者のプライドを傷付けないように配慮し、言葉かけや対応に気を付けるようにしている。呼び名や入室時の声掛けやトイレ誘導時等には職員間で話し合い、特にプライバシー注意するよう心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	こちらが一方向的に決めるのではなく利用者との話し合いながら利用者の希望に合った自己決定が出来る様働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活歴からその方がどんな生活スタイルで過ごしてきたか把握しなるべくそれが継続できるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や入浴時にはご自分で服を選んでもらったり出来ない方も身だしなみを整えてからリビングへ来て頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の献立には四季折々の食材を取り入れている。一緒に準備や調理を行う事で張り合いや楽しみを持ってもらえるようにしている。	ユニット毎で利用者の好みを聞いて献立を作成し、食材の買い出しをしている。利用者が盛り付けや下準備、食器洗い等の手伝いをしている。利用者は誕生会や敬老会の特別メニューを楽しみにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事量は健康チェック欄に記載し毎日の変化が一目で分かるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けやご自分で出来ない方には個別に対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄時間や排泄の間隔を把握し定期的に声かけを行う事でトイレでの排泄が出来るよう努めている。	排泄記録表で利用者の排泄パターンを把握し、定期的な声掛けや誘導でトイレで排泄出来るように支援をしている。排泄支援により紙パンツから布パンツになった利用者がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量には気を付けている。便秘気味の利用者にはオリゴ糖や排便を促す食事を取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は毎日行っている。利用者が希望した際には対応出来るように努めている。	本人の希望を聞いて毎日入浴支援をしており、利用者は少なくとも週に3日は入浴している。浴室は個室で埋め込みの浴槽であり、重度の方で入浴が困難な利用者はシャワー浴である。ゆず湯やしょうぶ湯で季節感を味わっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は利用者本人に任せている。眠れない利用者には会話をしたりと個々に対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに処方箋を挿んであり、副作用や効能を理解出来るようにしてある。常に身体の状態変化に気付き対応できるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の会話の中から得意な事や興味のある事、出来る事を聞きとりそれぞれが役割を持って頂けるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間行事には外出支援も取り入れており外食や花見を行っている。また、ちょっとした買い物やドライブ等は希望時に随時対応している。家族様にも協力して頂き墓参りやご自分の自宅で過ごす時間も取ってもらっている。	利用者の希望を聞き、外食や季節の花見、買い物やドライブに出掛けている。車で自宅まで一緒に行ったり、日用品の購入に職員と出掛けたりしている。また、家族と墓参りに行ったり、美容院に行っている利用者がある。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様よりお金を預かりGHIにて管理している。買い物や受診で使用している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持されている方もみえ、いつでも好きな時にご家族やご友人と連絡をしている。電話をかけたいと希望があった時は職員が対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングにはご利用者様が作成した季節折々の工作物を飾ったり、時期によっては光の入り具合が違って来る為テーブルの配置を変えたりしている。	リビングは天井が高くて採光が良く、ゆっくり寛げる空間である。利用者の見守りや安全を配慮し、リビングから各居室が一望出来るようになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士でゆっくりと過ごせる様テーブルやソファの配置を考慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具等は本人が使い慣れた物を持ってきて頂きなるべく環境を変えない様になっている。好きなアイドルの写真や家族の写真とそれぞれの趣味に合わせた部屋作りを行っている。	洗面台とエアコンは備え付けで、ベット・布団・タンス・机・椅子等は利用者が使い慣れた物を使用している。どの部屋も掃除が行き届き、整理整頓されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お部屋からリビングまでは一直線になっており手すりを使用する事で歩いて自室へ戻れるようになられた方もみえる。		